



3ページに紹介記事



- 🍷 言いたい放題！アッキー28号 (57)
辛卯 (かのとう) からの12年
- 🍷 「中宮チャンゴの会」20周年記念ライブに寄せて
- 🍷 STEMz マンガ文庫 蔵書紹介
アプリマンガのトレンドから外れたマンガ！
- 🍷 うたかた話(27)
- 🍷 今月の五行歌
- 🍷 原発賠償関西訴訟第37回期日の報告
- 🍷 作らずにはいられない21
「毎日がサンデー」プログラマー
- 🍷 イベント紹介/会計報告

「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス: lip@love-dugong.net

TEL: 070-5653-6913 (18時以降)



今年は卯年(うさぎ年)。かわいいうさぎのイラストを街角で見かけ、ふと一つ前の卯年からどんなことが起こったのだろうと思った。自作の五行歌を交えて振り返ってみよう。

戦後 という

言葉が消えて

震災後 私たちは

ひっそりと恐怖のなが

放射能と共に生きる

12年前の2011年3月11日。三陸沖で大きな地震が起こり、巨大津波が沿岸部を襲った。その影響で東京電力福島第一発電所では3つの原子炉建屋で次々に水素爆発が起こり、放射性物質が周囲に放出された。

震災の起こった日はちょうど障害を持つ上の子の中学校の卒業式だった。そして、公立高校受験の付き添い待機中、N高の食堂のテレビで原発事故についてのニュースを見た。外は雪。「東日本はもう人が住めなくなってしまうのか」。不支で涙しながら画面を見ていた。

いくつかの幸運な偶然が重なり、「東日本壊滅」は避けられたが、「原子力緊急事態宣言」が今も南相馬市の一部などに発令されている。

パリ、ニューヨーク、ニューデリー

テレビに映る無人の街角

スケート場に並べられた棺

息をつめて眺める

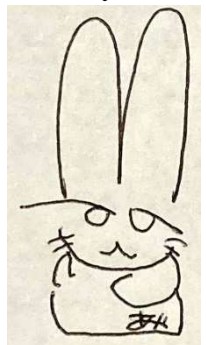
2020年3月

8年後、新しい感染症というメガトン級の災害*が降ってきた。2019年末中国・武漢で最初の症例が報告された新型コロナウイルス

辛卯(かのとう)からの12年

言いたい放題! アッキー28号(57)

感染症(COVID-19)は翌年世界中に広がった。日本は欧米ほどの壊滅的な流行被害



は免れたが、感染拡大を防ぐために、安倍首相(当時)は2月27日、全国の小中高校と特別支援学校に3月2日から春休みに入るまで臨時休校するよう要請した。その頃のCOVID-19は子どもには感染しないと報告されていた。なのに、なぜ? 「満員電車通勤してるサラリーマンの方がよっぽど問題ではないのか?」在宅勤務ができない仕事に就いている、無口な夫がつぶやいた。

感染予防のマスク不足。それが解消された頃全国民に配布された布マスク。おかしやないかと憤ったことが次々思い出されてくる。開催が1年延期された東京五輪は、4回目の緊急事態宣言の下2021年7月開催。翌2022年2月に北京五輪が開催され、閉幕4日後ソ連がウクライナに侵攻した。

毎日のようにテレビのニュースで流れる、現地の被害を映す映像を見て、息が止まる、言葉にならない。そして、こんなことがずっと中東などでは起こっていたのだとふと思う。ヨーロッパで起こったことだからこそ、毎日ニュースに流れるのだと気づくのがあった。

ちなみに、チェルノブイリ原発事故後旧ソ連では「チェルノブイリ法」が制定され、ソ連崩壊後ロシア、ウクライナ、ベルギーに引き継がれて被災市民に手厚い保護が行われてきた。それもなくなってしまうだろう。

うつつつとしていたなかが飛び込んできたのが、4月27日付の文科省通知である。「特別支援学級籍の児童生徒は、週のうち半分以上

の授業を支援学級で受けるように」との通知に従って、私たちの町では、これまで支援学級籍の児童生徒は毎日1〜2時間支援学級で学び他の時間は普通学級で授業を受けていたのだが、来年度から半分以上の授業を支援学級で受けるようになるかと保護者に伝えられた。驚いた保護者がアンケートや署名活動などを大々的に行い、変革は慎重にと訴えた。それはある程度の成果をあげているようだ。

それにしても、障害を持つ子を特別な学校で学ばせている、「分離教育」はやめるようにと、日本は国連からは正を勧告されているのだ。それなのに真逆のことを、今なぜ?

なぜ? なぜ? なぜ? 大きな災害のなかで、「ボランティア」、「自助と共助」、「自己責任」が強調される。「子どもの貧困」に取り組むNPOの行う子ども食堂のエピソードなど、心を打つ助け合いの美談が大きく報じられる。でも、困っている国民を助けるのは本来国の責務ではないのが。

弱いものが安心して生きていける社会をつくりたい。私の願いはそこにある。今年の干支は、「癸卯(みずのとう)」。これまでの努力が花開き、実り始める年になるとわれている。

まずは身近なところからだな。口角を上げて笑顔を作ってみる。

*米国では自然災害と共に疫病などの感染症を「災害」という概念で一括りにしているが、日本ではインフルエンザや疫学的な病気について、災害のなかに含めて考えていない。

(著者プロフィール) パート勤務の主婦。自閉症を持つ成人した息子がいます。放課後クラブ『チャレンジ・キッズ』代表 <https://ameblo.jp/challengekids81573/>

〈出会い つながろう in 枚方〉 「中宮チャンゴの会」20周年記念ライブに寄せて

中宮チャンゴの会は、20周年記念ライブを開催します。

私たちの「会」は2000年に始まった百済フェスティバル・ひらかた多文化フェスティバルをきっかけに生まれました。その前史は、当時の中宮中学校の校長先生、卒業生、枚方市在職の教員、地域のオモニたち等、多彩な顔ぶれで始まっていたチャンゴの練習会でした。

春は地元中宮にある百済王神社から宮之阪の商店街を通り枚方の駅前まで、古代朝鮮百済時代の時代衣装で練り歩きます。秋はひらかた多文化フェスティバルに欠かさず出演させていただいています。まず出演が決まりそのイベントを目指して週一回の練習です。また、夏のひらかた祭りの駅前パレードやデイサービスでの演奏、夏休み留守家庭児童会・土曜日いきいき事業での小学生のチャンゴ体験など、呼びがあれば、どこにでも出かけています。

チャンゴは、朝鮮半島の伝統打楽器です。プク・ケンガリ・チンと併せ、4種類の打楽器で



演奏するサムルノリや独特のリズム。4拍子に慣れた私には、20年経った今でもなかなか身体に馴染みません。でもそこが魅力なのかもしれません。また、チャンゴを通して、朝鮮半島の文化や歴史について学ぶ機会にもなっています。ぜひ、一度体験してみてください。

なお、今回、百済・多文化フェスティバルでごいっしょさせて頂いている、日本民謡三津博会、ひらのキジムナー〈子どもエイサー〉、フラ・ハラウ・オガサハラ（フラダンス）の皆様が共演して下さいます。私たちの演奏にも増して舞台は賑やかに華やかに盛り上がることでしよう。

当日会場でお目にかかれますように。

(佐藤)



【ご案内】 「中宮チャンゴの会」20周年記念ライブ

☆日時：2月19日（日）13時30分～16時（13時開場）

☆場所：枚方市総合文化芸術センター別館（旧メセナひらかた会館）枚方市駅徒歩5分

☆入場料：無料

☆主催：中宮チャンゴの会（佐藤090-6328-4006）

STEMz マンガ文庫 蔵書紹介

アプリマンガのトレンドから外れたマンガ！

最近、電子でマンガを買うことがめっぽう増えた。紙のコミック本を応援したい気持ちはもちろんある。でも、電子で買う気軽さや、質のなさ(マンガは高張る!)、お財布事情(割引率といった値段)に、負けて紙のマンガ本を買う機会が減ってしまった。

個人的に楽しむなら電子で十分だ。でも、「子どもたちには紙の本を読んで欲しい」という気持ちが大きい。そう思う様々な理由のひとつに、アプリマンガのレコメンドで上がってくるマンガが個人的に好きではないからだ。

それはなぜか？アプリマンガでよく目に付くタイトルは青年・成人向け週刊誌の表紙に書いてあるようなゴシップネタに近いテーマの作品しか表示されない…のような気がするのだ。

私が好んで読むマンガは、世間のトレンドから外れまくってると思う。でも、図書館のようなセレクトのマンガアプリがあってもいいじゃないか。アプリマンガで安っぽい恋愛や、不倫や裏切り、暴力、卑猥な作品が目に入らないようにすることは、とっても難しい。そういう作品がマンガの世界と思われても仕方がないくらい、それ一色で埋め尽くされたアプリのトップ画面。文学的な作品は奥の奥のほうに仕舞われて、アプリの中では殆ど日の目を浴びないのではないだろうか。そんなマンガしか知らない大人になってほしくない。

そんなわけで、今回は多分絶対!!!アプリマンガのレコメンドに上がってこない作品を紹介します。

東京ヒゴロ 著：松本大洋 既刊2巻 蔵書2巻(電子)



50歳過ぎの漫画編集者、塩澤和夫は、自身が担当する雑誌廃刊の責任を取り、大手出版社を早期退職する。公私共に漫画と決別したはずの塩澤だったが、あることを契機に、理想のコミック誌を自腹で創ることを決意する。現状を憂い、過去や新しい人生に迷う漫画編集者、漫画家たちの姿を描いた人間ドラマ。

自叙伝、スポーツ、アート、子ども。様々な題材をテーマに作品を通して独特な世界観を発信している、松本大洋さんの最新作は、ご自身そのものとも言えなくはない「漫画家と漫画編集者」を描いている。松本大洋さんの作品は多くを語らない。登場人物達の心情を推察するのは読者。でもこの作品は松本大洋さんの心の声的なものがダダ漏れだ。彼らを通して語られる天才と言われる松本大洋さんの漫画の世界をとくにご覧あれ！

エンタメとしての漫画というよりは、文化や文学を伝える漫画だと感じている松本大洋さんの作品。こういった作品が現在進行形で連載されていることに拍手！

海が走るエンドロール 著：たらちねジョン 既刊：3巻 蔵書：3巻(電子)



65歳を過ぎ夫と死別し、数十年ぶりに映画館を訪れたうみ子。そこには、人生を変える衝撃的な出来事が待っていた。海(カイ)という映像専攻の美大生に出会い、うみ子は気づく。自分は「映画が撮りたい側」の人間なのだ——。心を騒がせる波に誘われ、65歳、映画の海へとダイブする！

小さなシネマで上映される映画は演劇に似ている。作り手たちの多大な思いと湯水のように投下された私生活の上にしか成り立っていない。有名にならなければ作りたいものは作れない。有名になるためには何かを犠牲にし、自分の信念を曲げてでも作りたい物を作るために我慢を買ってでもする。そんな作りたい側のリアルがほんの少し垣間見える作品です。

自分を愉しませるためだけに作るには映画は大きすぎる。でも撮りたい理想がある。そんな沼のような映像の世界に魅せられた彼らがどんな作品をどうやって作っていくのか？シニアのチャレンジというテーマがクローズアップされがちな作品ではありますが、私は「映画の作られ方」のほうに気になっています。

(みんなでつくる学童STEMs そふえ)
[STEMz マンガ文庫]で検索！

前回は「古今和歌集」を中心に書いてみましたが、紀貫之については余り詳しく書いておりませんでしたので、今回は紀貫之を中心に詳しく書いてみたいと思います。前回にも書きましたが、紀貫之は女性の文章で「土佐日記」を書いて居ります。「土佐日記」の書き出しが、「男のすなる日記という物を女もしてみむとてするなり」で始められています。何故「土佐日記」の書き出しを此処で書いたのでしょうか。それは紀貫之の書いた物と言えば、「土佐日記」と「紀貫之集」のみに集中されて居ます。

新潮社の日本古典集成の紀貫之の巻でも「土佐日記」と「貫之集」に限られていたからです。彼の有名な著書はこの二冊に限られているようです。他に「古今和歌集」の「仮名序」があります。これを中心に紀貫之について語ってみたいと思います。

彼の生涯については余りはっきりしておりません。と云いますのは余り有名では無いと言う事です。名前は有名ですがその作品はそれ程名を知られていません。彼の作品は「古今和歌集」の「仮名序」と「土佐日記」との二つです。二つとも最後まで読んだ人は無いのでは無いでしょうか。

「大和歌は」で始まる「古今和歌集」の「仮名序」と「男のすなる日記という物を女もしてみんとてするなり」で始まる「土佐日記」との二つが有名です。

この二つとも始めから終わりまで読んだ人は居ないと思いますが私はその総てを読んで見ました。最後の舟が止まった所に、「渚の院」の事が書かれています。それは「土佐日記」のお終いの方の一節で、12月21日に舟で羽根という所を出発して2月の9日に山崎の和田の泊（此処は神崎川と淀川の分かれる所です）に停泊しています。そこが対岸の「渚の院」の見える場所です。そこで「渚の院」をみながら京へ舟を引っ張って行きました。其処の表現は、「昔を思いやりて見れば、おもしろかりける所なり。しりへなる岡には、松の木どもあり。中の庭には、梅の花咲けり。ここに人々のいはく、「これ、昔名高く聞こえたる所なり。故惟喬親王の御供に、故在原業平の中將の、『世の中に耐えて桜の咲かざらば春の心はのどけからまし』いふ歌よめる所なりけり」と言う様に「土佐日記」には書かれています。

要するに「渚の院」は別にしてもその夜、舟は反対側の岸に止まった事は確かです。そこから「渚

の院」を見て当時の事を思い出して居たのでしよう。歌の中に当時の事が描かれております。

「渚の院」についてはLIPの2012年8月号で「枚方の歴史「渚の院」の跡」として書かれています。その時に在原業平の中將の歌「世の中に会えてさくらのなかりせば春の心はのどけからまし」と云う歌が書かれています。この辺りはその昔は今故惟喬親王にとっては「渚の院」はその他に色々話題にのぼる所です。今は無き「渚の院」は故惟喬親王にとっては思い出の多い所だったと思います。

「土佐日記」は此処から京都に向かって書かれています。彼は四国で女の子を死なせています。それが今でも尾を引いているのでしよう。その悲しみは京都に戻っても消える事はありませんでした。それ程彼に


としてはショックだったのでしよう。京都の自宅の庭を見ても常に彼女との事を思い出す事になります。日記にはそう書いてあります。「土佐日記」は此処で終わっています。

これが「土佐日記」の一部始終です。この様に「土佐日記」には航海の事が大部分を占めていますが、私に取りましては「渚の院」と彼女との思い出が心を打った事になります。

紀貫之の事は余り詳しくはありませんが、「新潮日本古典集成」の「土佐日記、貫之集」の解説に貫之の小伝として書かれています。貫之の人生については余り詳しくはありませんが、それでも大体の事は判明しております。彼の小伝の内ではっきりしている事は「古今和歌集」の「仮名序」が書かれている事と「土佐日記」の名文が書かれている事だと思えます。

生涯については余り言われていませんが、紀貫之の父は紀望行で古今和歌集の選者である紀友則とは従兄弟同士だったと思われれます。それ程紀氏については知られておりませんでした。紀貫之については「土佐日記」の作者であり、紀友則と共に三十六歌仙の一人であることは確かです。

今回もPCのWikipedia及び新潮日本古典集成のお世話になりました。

「おしまい」  小田川徳男

うたかた話(27)

古文(随筆)関係(4)

LIPが選ぶ 今月の五行歌

ニワトリは
ちえこ

みなごろし

なの

ニンゲンは

いかされる

Google レンズでは
ちなぎ

ネックレスの仲間

背伸びして撮った

鈴なりの

プラタナスの実

手と指、口も
貢

速射砲のよう

健常者より

表情ゆたか

手話での語りあい

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。

(連絡先: akie.toyotaka@gmail.com
または 090-5893-5635・豊高)

～「人の命」と「健康」と「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判～ 原発賠償関西訴訟第37回期日の報告

1月19日(木)大阪地方裁判所で原発賠償関西訴訟第37回期日が開かれました。これは、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故で関西に避難してきた人たちが、国と東京電力(以下、東電)に対し、事故の真相究明と責任の追及、損害の完全賠償、被災者全員への暮らしの支援を求める裁判です。

第8波の新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、今回報告集会は開催せず、模擬法廷(法廷外企画)もオンラインの配信のみ。傍聴希望者については、前回前々回に続き抽選は行われず先着順でということで、午後1時過ぎ裁判所別館玄関前に集まった約40名の傍聴希望者は原告・弁護団の入廷を見守った後、各々荷物検査を済ませて法廷に入りました。

法廷では、原告から準備書面89「被告東京電力準備書面34に対する反論」が提出され、パワーポイントでプレゼンテーションが行われました。被告からの準備書面提出はなし。

準備書面89は、原告が証人尋問を予定している、低線量被ばくの危険性について述べた、本行忠志教授の意見書に対して、被告東京電力が反論を加えた準備書面34を提出したことに対する反論を述べるものです。このうち、パワーポイントでは、避難の相当性に関する前橋訴訟東京高裁の判決について紹介し、低線量被ばくの危険性に関する文献のポイント部分を紹介、UNSCEAR*報告書の問題点についての説明がなされました。

オンライン配信での模擬法廷が終わると、サポー

ターから、「ふつうの暮らしニュース」最新号ホームページへのアップのお知らせや、毎月第三土曜日午後開催されている訴訟学習会についての告知、京都訴訟、兵庫訴訟の次回期日の案内、また弁護士から、2月4日にリアルとZoomで開催される「おおさか人権フェスタ2023」(大阪弁護士会企画)の案内があり、続いて原告団からの挨拶。ギャラクシー賞テレビ部門「奨励賞」を受賞した、原発事故被災者やそれにかかわる人たちの生き方を伝える「ザ・ドキュメント もやい 福島からの風」(カンテレーガ)が2月6日までネット上で無料公開されることや、福島への帰郷報告、5月から始まる本人尋問を前に2月18日に開かれる原告団総会への参加の呼びかけと、支援者に対して、引き続き裁判傍聴で応援してもらえよう、それが大きな力になると、呼びかけが行われました。法廷での傍聴者は43名、Zoomによるオンライン配信の視聴者は18名(運営側3名含む)でした。

原発賠償関西訴訟の次回第38回期日は、大阪地方裁判所で3月8日(水)午後2時開廷予定です。これまでずっと木曜日でしたが、今回は水曜日です。

(文/豊高明枝)

*UNSCEAR: 原子放射線の影響に関する国連科学委員会の略称。放射線による被ばくの程度と影響を評価・報告するために、1955年の国連総会で設置された委員会。(Wikipediaによる)

シリーズ『作らずにはいられない』(21) 「毎日がサンデー」プログラマー

このところ、ちょっと“プログラミング”に凝っています。

まったくの“サンデープログラマー”です。サンデープログラマーって言葉自体、すでに死語かもしれないのでちょっと説明しておく、趣味で休日とかにプログラムを書いて楽しむ人のことです。

むかしむかし、パソコンというものが世の中に出たころは、自分でプログラムを書かないと何も動かないという代物で、もちろん、ネットも記憶媒体もまだ無いため、雑誌とかにプログラムソースが印刷してあって、それをひたすら手入力して動かしてよろこぶ、みたいな世界でした。仕事で使うにしても、BASIC という言語でプログラムを書いてやらないと始まらないということ。

わたしもそんなころに社会人となったため、当時面白半分でちょっとカジってみたことがありました。

話は現代に戻ります。サンデープログラマーという言葉が聞かなくなって久しいと思うのですが、それは、パソコンも進化してアプリケーションソフトが多数生み出され、ワープロや表計算、プレゼンテーション用などのソフトが揃っているので、わざわざプログラムを書く必要がほとんど無くなってしまったということに加え、プログラム言語自体もだんだん複雑になり、ハードルが高くなってしまったこともあると思います。

ところが！ わたしも最近気づいたのですが、異変が起きていました。

プログラミング自体が、とてもお手軽になっていたのです。

きっかけは、初孫のオトちゃんのオモチャ作りです。

3歳になって数に興味が出てきたようなので、指で1, 2, 3と数えるプログラムを作ってみようと思いついたのです。パイソンっていうプログラム言語が流行してて、画像処理が簡単にできるという話を聞いていました。そこで、人の手を認識させて、数えさせられないかという思い付きです。

これを1から作ろうと思うと、どうやったらいいのかさっぱりわからないのですが、便利なライブラリというもの提供されていて、それを使うとあら不思議。出来てしまいました。Googleさん謹製のMediaPipeというライブラリを使っています。

さらに調べると、Webでもできることがわかり、これも作ってみました。

<https://love-dugong.net/finger10/>



わたしが作ったこのサイトを開くと、カメラの使用許可を求められ、許可すると動き始めるはず。カメラが備わっていれば、スマホでもパソコンでも動くはず。

カメラに手が映るようにすると、立てている指の本数を数えて、数を読み上げます。プログラマー(わたし)がへぼいので、いまのところ片手しか数えられませんが(^;) 両手に対応するつもりで、finger10としています。いつになったらできるのかは不明なままです。

わたしもいよいよサラリーマンを卒業して地域社会への旅立ちの日が近づいてきました。卒業後にどんな生活をしていくのか、考えなければなりません。こんなサンデープログラミングも今後の生活の一部にしていけたらと思います。

文/わたなべ (LIP編集部)



イベント・サークル・ボランティア情報

出会いつながろう in 枚方
中宮チャンゴの会 20周年記念ライブ

- ◆日時：2月19日(日) 13:30開演(13:00開場)
(16時終了予定)
- ◆場所：枚方市総合文化芸術センター別館 メセナホール
(旧メセナひらかた会館)
- ◆入場無料
- ◆出演団体：フラ・ハラウ・オガサハラ
ひらのキジムナー 日本民謡三津博会 中宮チャンゴの会
- ◆連絡先：090-6328-4006(中宮チャンゴの会佐藤)
- 会場の都合により、事前に連絡いただけるとありがたいです。
- ◆主催：中宮チャンゴの会

【枚方自閉症児(者)親の会】

- 自閉症だけでなく生きづらさを感じながら生きている人、その保護者や関係者の方々。どうぞフリートークでご参加ください。話すことにより、何か新しいことに気づけるかもしれません。
- ◆日時：2月1日(水) 10:00~12:00
3月15日(水) 10:00~12:00
 - ◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム
 - ※連絡先 松崎 072-845-3014 さんなみ 072-868-9929

令和4年度 消費生活セミナー

「損させません！お得な生活術〜水回りの安全安心編〜」

- 日時 2月28日(火) 午前10時~正午
- 会場 枚方市立消費生活センター研修室
- 主催者および連絡先
石けんを使いましょう枚方市民の会
- 【問合せ先】枚方市立消費生活センター
電話&FAX 072-844-2433
- 参加費用 無料(先着20名)
- 保育5人(1歳~就学前) 要予約
- 手話(2月8日までに要予約)

生活に欠かせない水回りの「困った」を安全安心に解決していくヒントをご提案。環境に配慮した廃油(食用油)回収の取り組みやトイレ・お風呂など、生活排水が詰まった時の対応や簡単な予防策などもご紹介します。

「みんなといっしょに高校へ行きたい」 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会定例会

昨年末、高校受験する3組の親子が、府教委に対して、「宣言文」を手渡した。入学への思いを懸命に訴えて。毎年の光景、この積み重ねが「定員割れ不合格を出さない」大阪の高校受験を開いてきた。

2022年度、枚方市などの教育、大揺れに揺れた。「共に学び、共に育つ」教育を、たたかい、守り、開いていかななくては〜と、実感しあったのではないのでしょうか。

- ◎とき：2月5日(日曜) 午後1時30分~5時
- ◎ところ：寝屋川市民会館 3階7会議室
寝屋川秦町41-1 Tel.072-823-1221

◎内容：

- ① 間近に迫った高校受験について
 - ② 子ども達と学校や生活上の課題
各市教委と文科省通達
 - ③ 「医療的ケア」の要る子どもを巡って
 - ④ 高校卒業後の進路と生活
 - ⑤ その他、自由に交流
- ◆ ZOOM参加も有ります。2/3までをお願いします。
申し込みは松森まで：matumori@crux.ocn.ne.jp
 - ◆ 連絡 松森：090-1960-3469 関山：090-2599-6162
 - ◆ 会場参加費：1家族100円
 - ◆ 主催者：知的障害者を普通高校へ北河内連絡会

応援ありがとうございます♪

L I P 応援団

平和を願う神戸のお友達さん
匿名希望さん

L I P 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
39,072	前号から繰り越し
4,000	寄付
▼984	郵送代
▼500	ロッカー代
▼3,990	1月号印刷代
37,598	計(次号へ繰り越し)

STOP WAR

■『L I P』2021年10月号、2022年9月号にそれぞれ紹介記事を掲載してもらった、五行歌集『コケコッコの妻』、『緑の星』について、昨年共同通信の取材を受け、「人生の悲喜五行歌に 自閉症長男との日々つづる」(毎日新聞大阪版)などと題して、これまでに西日本及び山梨県の新聞7紙に記事が掲載されました。記事に書いてもらったことで、これまで自分でははっきり意識していなかった自身の姿を自覚、子どもとの関係も少し変わったような気がしています。歌集については、枚方の図書館に寄贈、枚方市駅直結のひらかたサンプラザ3号館4階の男女共生フロア・ウィルの「登録団体コーナー」や、そのお隣の若者相談支援センターの本棚にも置いてもらっています。ぜひ一度手に取って、見てみてください!

(A)

■L I Pは市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか?



枚方コーレん

デビューしちゃう?

【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ➡➡



イラスト 表紙：平井由恵